

平成31年度 第2回学校関係者評価委員会 議事録

日 時 令和2年3月24日（火）15時30分～16時50分

場 所 長崎医療こども専門学校 3階普通教室

出席者	職名	氏名	所 属 ・ 役 職	関連学科
委員長	藤田裕紹	有限会社 藤田企画	代表取締役	柔道整復師科
委 員	安元宏之	医療法人 緑風会	事務長	医療ビジネス科
委 員	伊東俊祐	社会福祉法人 明星会	明星園 園長	保育こども科
委 員	吉田芳男	社会福祉法人 小榎アスカ福祉会	理事長	介護福祉科
委 員	吉澤秀記	FROM ながさき事業協同組合	理事長	日本語科
委 員	三浦誉洋	社会福祉法人 縁和会	理事長	卒業生
委 員	永田真弥	永田真弥税理士事務所	所長	国際ビジネス科
委 員	久保 賢	長崎県高等技術専門学校	元校長	
		独立行政法人 高齢・障害・求職者支援機構		
		長崎支部 長崎職業能力開発センター	職業能力開発	

以下の委員1名は委任状出席

委 員	岩崎誠一	長崎駅前商店街組合	理事長	地域住民
事務局	松添邦廣	長崎医療こども専門学校	校長	
事務局	一ノ瀬泰	長崎医療こども専門学校	本部長	
事務局	松尾広宣	長崎医療こども専門学校	事務局長	
事務局	中嶋真司	長崎医療こども専門学校	柔道整復師科	科長
事務局	山崎美奈子	長崎医療こども専門学校	医療ビジネス科	科長
事務局	岩永加寿恵	長崎医療こども専門学校	保育こども科	教員
事務局	山下 忍	長崎医療こども専門学校	介護福祉科	科長
事務局	小川美奈子	長崎医療こども専門学校	日本語科	科長
事務局	松尾健太郎	長崎医療こども専門学校	国際ビジネス科	科長

- 議 題
1. 開会：委員長挨拶
 2. 平成31年度 自己評価について
 - ①教職員による自己評価
 - ②保護者アンケート調査 ※①②は第1回目委員会で報告
 - ③授業評価
 - ④各学科・部門の重点目標の達成状況

⑤学校満足度評価

⑥卒業生の調査

3. 質疑応答
4. 委員の任期更新について
5. その他
6. 閉会

議事録

1. 開会：委員長挨拶

藤田委員長が挨拶をし、議事の進行に入った。

2. 平成31年度 自己評価について

事務局より、本年度の行った自己評価について報告がなされた。

①教職員による自己評価

②保護者アンケート調査

①及び②は第1回の学校関係者評価委員会で報告済みなので、概要について報告をした。

③授業評価

各学科のクラスごとに全教科についての授業評価を行った。

評価方法は、学生自身が理解度や授業への取り組み方を評価する方法と、授業の進め方や担当教員の授業方法について評価する方法で行ってる。

評価は5段階評価。

全学科を通じて、評価点には次のような傾向があった。

- ・実技や演習については評価点が高い（学生の興味が高い）。
- ・学外での実習については本人の評価点が低い。
- ・同じ分野の授業を行っても、非常勤講師によって評価点のばらつきがある
- ・常勤教員の評価点は全体的に高かった。

本年度から取り組み、評価点の指標となるものがないため、評価結果の活用方法は検討中だが、他の専門学校の活用方法などを取り入れ、次年度以降につなげていきたいと考えている。

④各学科・部門の重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について、各学科・部署ごとに目標を数値化し、その達成状況を確認した。

事務局の各科長から、学科ごとの状況を報告

柔道整復師科 中嶋

医療ビジネス科	山崎
介護福祉科	山下
保育こども科	岩永
日本語科	小川
国際ビジネス科	松尾
介護基礎科	一ノ瀬
募集・広報課	一ノ瀬
留学生事務局	一ノ瀬

1) 学生全員の就職及び進学の実現に努める。

柔道整復師科は国家試験の発表の後で就職活動に取り組む学生もいるため、現段階の就職内定者数は少ないが、他の学科においてはほぼ全員の就職内定をいただいている。

2) 学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

柔道整復師科と介護福祉科の国家試験の合格発表は3月下旬であるため、現段階では正確な合格率は出ていない。他の学科については目標に達することができなかつた学科はあるものの、保育こども科のように100%を達成している学科もある。

なお、日本語科は本年度より日本語能力試験4級の合格率の向上を目標とし、合格率74.5%を達成することが出来た。

国際ビジネス科については、本年度より日本企業への就職を目標として掲げ、就職希望者15名のうち、11名が就職内定をいただくことができた。

3) 学生の中途退学者の低減に努める。

ほとんどの学科が中途退学者ゼロを目標に掲げたが、各学科とも数名の退学者が出た。しかし、日本人学科は医療ビジネス科を除き、退学者は前年度を下回っている。医療ビジネス科は、昨年度はゼロ名だったが、本年度は2名が退学したため、本年度の反省点を活かし、来年度は退学者を出さないようにする。

また、留学生学科の退学者数は多いが、ほとんどが進路変更による進学や就職、家族滞在への切り替えや帰国した学生である。

⑤学校満足度評価

この評価は授業だけでなく、学校の施設や設備、学生支援等に関して満足をしているかを評価する。学校の環境整備等に活用するように検討している。

- ・今年1年間の学業面や生活面の目標は達成できたかについて

達成できた	52%
もう少しだった	39%
達成できなかった	5%
無回答	4%

約半数の学生が目標を達成できたと感じており、約4割の学生がもう少しと感じていることから、全体的に学業面に対する努力と生活面に関する充実していると捉えられる。

達成できなかったと回答した学生には担任から個別に対応する。

- ・本校の施設や環境について良いと思われるものについての質問に対する回答は次の通り（複数回答）。

校舎の場所	43%
教室の環境	19%
実習室	13%
トイレ	7%
非常用設備	4%
実技設備等	13%
その他	1%

長崎駅前という交通の利便性から、校舎の場所が良いと回答している学生が多く、教室の環境、実習室、実技設備等についても満足している学生がいます。

ただし、トイレの個数が少ないという意見が出ており、トイレについては評価が低くなっている。

- ・本校の教育内容についての質問の回答は次の通り（複数回答）。

国家試験等	20%
担任制	32%
授業の方法	19%
実技実習時間	12%
就職指導	7%
就職実績	9%
その他	1%

国家試験、担任制、授業の方法を合計すると71%。現状の教育内容で満足している学生が多いと思われるが、更に教育力の向上を図っていく。

- ・今年1年間（卒業年次生は全学年）の満足度を5段階で評価した場合の評

価割合は次の通り。

評価5	22%
評価4	45%
評価3	29%
評価2	3%
評価1	1%

この評価も本年度から取り組んでいるので、過去の評価の指標はないが、評価4以上の学生が65%いるので、これらの学生を更に満足させ、評価点3以下の学生が自分の努力に対して満足する結果が出せるように取り組んでいく。

⑥卒業生の調査

今回の卒後評価は、卒業後の離職率を調査することが第一の目的だったが、調査から回収する期間が短かったこともあり回収率が低かったので、本報告書ではあくまでも参考として報告する。

また、来年度に向けても調査を継続し、来年度の自己評価として正式に報告する。

・ 卒後3年以内の在職率

1年後	92%
2年後	57%
3年後	57%

・ 離職後に同系統の職種に転職した割合

1年後	0%
2年後	83%
3年後	50%

・ 在職率と同系統の職種に転職した割合の合計

1年後	92%
2年後	92%
3年後	79%

本校を卒業して就職した事業所を離職した後も同系統の職種で働いている学生が多く、本校で学んだ専門性が活かされているのではないかと考えられる。

3. 質疑応答

藤田委員長：以上、説明していただいた本年度の自己評価について、委員の皆さんからご質問やご意見をお願いします。なお、回

答はお一人ずつ行いますので、各委員からのご質問、ご意見の後で事務局に回答を求めてください。

伊東委員 : 卒業生の卒後調査の回収率が低いので、回収が難しいのかというのが率直な感想ですが、離職した卒業生も同系列の職種で働いている人が多いのは、学校で学んだことが活かされていると思いました。

久保委員 : 入学者の県内比率、卒業生の県内比率はどのようになっているのか。介護福祉科と保育こども科は就職率が100%ですが、県内と県外の比率はどのようになっていますか。

事務局 : 介護福祉科は全員が県内です。保育こども学科は1名が佐賀に就職しましたが、その他は県内に就職しています。

久保委員 : 長崎県の雇用労働政策課は、大学生や高校生を県内にどう定着させるかという努力をしている。それに対し、本校は県内の若年労働者を確保しているので、強くアピールして良いと思います。

吉澤委員 : 留学生の受け入れについて、途上国から入学する場合、学費の負担が厳しいと思われるが、就職がある程度担保されれば入学してくる学生も増えてくるのではないか。事業所が学費等を担保してくれるようなシステムがあれば、留学生も多くなるのではないか。

永田委員 : 県内企業への就職率は高いので、企業との連携を深めていければ良いと思います。

授業評価について、どのような基準に基づいて学生さんが評価しているのか教えていただきたい。

重点目標の国家試験・資格試験の合格率については、全国的な合格率や大学・専門学校の平均的な合格率も載せていただければ比較がしやすいと思いました。

事務局 : 授業評価については次の項目を考慮して評価するようにしています。

○学生自身の評価

- ・授業に目標を立てて臨んだか
- ・予習と復習をしたか
- ・授業中に質問をしたか
- ・疑問を解決する努力をしたか

・資格や検定試験などの結果は満足できたか

○授業評価

- ・学習目的やテーマは明確だったか
- ・授業は理解しやすかったか
- ・授業方法（講義・演習・実技など）は適切だったか
- ・宿題などの課題の内容と量は適切だったか
- ・授業の進め方は先生の一方向的な講義ではなかったか
- ・教員は熱意を持って授業をしたか
- ・授業全体に対する充実感や満足感はあったか

また、国家試験や検定試験の全国的な合格率については、来年度の検討事項としたいと思います。

安元委員 : 学校満足度評価で担任制の評価が高いので、担任の先生方の授業やクラス運営以外でも学生さんに小マメに対応しているんだらうという事が良く分かります。卒業生に対する調査の回収率が低いのが気になります。おそらく良い結果が出てくると思いますので、今後も取り組んでいただきたいです。

また、私どもの病院にも御校の卒業生がいますが、2年間かけて良く指導していると感じます。

吉田委員 : 介護福祉士を目指す若い学生が少なくなっているのです、高校に向けて介護福祉士の仕事の良さをもっとアピールした方が良いのではないのでしょうか。

もう一つは、外国人留学生に対する住まいや食生活・習慣などの相談も受けてやれば、御校で学ぶ学生さんも増えてくるのではないかと思います。

三浦委員 : 私の事業所でも自己評価を行っていますが、今回は、教職員・学生・卒業生・保護者と、多くの方々から評価をしているので、何か基準があって行っているのでしょうか。

また、私自身が卒業生ですので、担任制はとても良いと思います。相談窓口としての機能を果たす役割ですので、担任が親身になって指導することが良いと思います。

就職してくれた職員には長く勤務してもらいたいと考えているけども、メンタル的な面の指導も含めて指導していただきたいと考えています。

また、以前の専門学校と今の専門学校はかなり変わりつつあるのかと思います。高校の延長上のような感じもしますし、このように評価までしなければならないというのは本当に大変だと考えています。

事務局 : 吉田委員への回答

○日本人の介護離れと外国人留学生への対応

→まず、介護福祉科には、日本人の学生と留学生以外に長崎県高等技術専門校から委託訓練として入学してくる社会人の方もいます。介護の仕事は中高年者も再就職ができるけれども、うまく広報ができていないので、長崎県と連携して広く知っていただくように進めたいと考えています。

また、留学生については、住居は学校の寮とアパートへの入居を手配しています。食事面については、いま取り組んでいるインドネシアはイスラム教ですので、食事はハラールでなければなりません。国や宗教によって食生活も異なってきますので、今後も学生が相談しやすい環境づくりをしてまいります。

伊東委員・安元委員への回答

○卒業生への卒後調査の回収率

→卒業生への支援や連携を図るため、今回の調査(回収)は継続して行い、元担任が呼びかけるなどして回収率を高め、来年度の会議で改めて出せるようにします。

吉澤委員への回答

○日本での就職先が担保されていれば留学生が増えるのではないか

→来年度の入学から長崎県が取り組む修学資金貸付制度として、海外に在住する外国人に修学資金を貸し付け、日本に留学させ日本語学校で学び介護福祉科に進学するという制度も始まります。このような制度が色々な人手不足の業界にひろがれば、外国人も多く留学してくるのではないかと思います。

三浦委員への回答

○自己評価の方法について

→本校が取り組んでいる自己評価は、文部科学省から平成19年度に義務付けられたために行っています。しかし、具体的な評価の方法はガイドラインで示されているだけで、教職員からの自己評価だけでは評価する意味がないと判断し、長崎県や他の団体が行っている自己評価の方法を参考にして多角的に評価する方法を本年度から行っています。

○現在の専門学校について

→確かに三浦委員が本校に在学していたときと制度的に変わってきています。本校が取り組んでいる職業実践専門課程は平成26年度から始まり、来年度の入学者から始まる高等教育機関の修学支援新制度については大学と同等レベルの申請を行わなければならない、全国の専門学校では6割強しか対象校になっていません。

藤田委員長：その他、ご意見やご質問はありませんか。

※其他のご意見やご質問はなし。

4. 委員の任期更新について

藤田委員長：では、議題の4の委員の任期更新について、事務局よりお願いします。

事務局：皆様方の任期は、令和2年3月末までとなっております。先日、学内で行った会議では皆様方に改めてお願いしたいと考えておりますが、改めて文書にてご依頼場をお送りします。

5. その他

藤田委員長：その他、委員の皆さまや事務局から連絡事項等はありませんか。

※連絡事項等はなし。

6. 閉会

藤田委員長：では、以上を持ちまして、平成31年度 第2回学校関係者評価委員会を終了します。委員の皆様は長時間に亘りありがとうございました。また、学校の先生方は、前回と今回の委員会で委員の皆様から頂いたご意見を学校の運営に活かしていただくようお願いいたします。

以上